

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	京都府
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	福知山市立修斉小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	2	3	2	3	2	18	
児童数	86	80	80	84	68	81	7	486	28

研究の概要

1. 研究主題

自分らしく生き生きと表現する児童の育成
 - 体験的な活動を通して、自ら考え、追求する社会科学習 -

2. 研究内容と方法

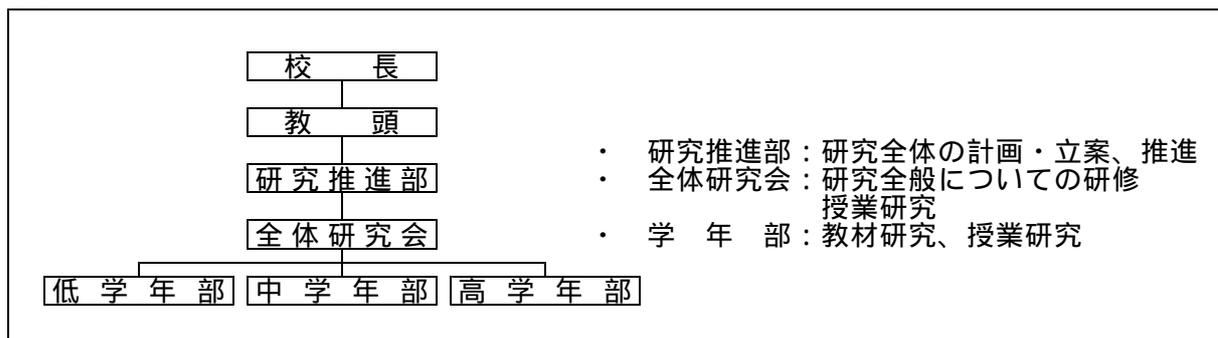
(1) 実施学年・教科

3、4、5、6年生・社会科
 現代社会の状況や本校児童の課題である「自分の思いや考えを表現する力」や「論理的に広く深く追求する力」「人とかかわる力」などを培い、人間性豊かに「社会に生きて働く力」の育成を目指すこととした。また、体験的な活動を通して、「考える」「表現する」「追求する」などの学習活動を積み重ねる授業を目指し、サブテーマとした。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ「自分らしく生き生きと表現する児童の育成」 - 体験的な活動を通して、自ら考え、追求する社会科学習 -</p> <p>研究の見通し(仮説)</p> <p>(1) 自ら問題を見つけ、解決方法を考え判断し、主体的に問題を解決する喜びや楽しさを味わう問題解決的な学習を積み重ねれば、見通しを持ち筋道を立てて考える力が付くであろう。</p> <p>(2) 体験的な活動や地域教材を生かした学習や学習形態・指導体制を工夫するすれば社会に対する見方、考え方を深めることができるであろう。</p> <p>(3) 一人一人の良さを生かし、認め合える評価を工夫すれば、自己表現力が高まり、意欲的に学習に参加できるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 社会科における問題解決的な学習過程の研究</p> <p>(2) 複線型の学習と指導方法・指導体制の研究</p> <p>(3) 体験的な活動・地域教材の開発と人材活用</p> <p>(4) 評価についての研究</p> <p>(5) 充実した豊かな表現活動の研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 低・中・高学年部で研究を進める。 ・ 社会科専科教員による教科担任制を実施する。 ・ 授業研究会を計画的にもち、指導・助言を積極的に受ける。
平成16年度	<p>テーマ「自分らしく生き生きと表現する児童の育成」 - 体験的な活動を通して、自ら考え、追求する社会科学習 -</p> <p>研究の見通し(仮説)</p> <p>(1) 自ら問題を見つけ、解決方法を考え判断し、主体的に問題を解決する喜びや楽しさを味わう問題解決的な学習を積み重ねれば、見通しを持ち筋道を立てて考える力が付くであろう。</p> <p>(2) 体験的な活動や地域教材を生かした学習を行う中で、指導形態・指導体制を工夫すれば主体的・意欲的に学習に参加できるであろう。</p> <p>(3) 一人一人の良さを生かし認め合える評価を工夫すれば、自己表現力が高まり、社会に対する見方、考え方を深めることができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 評価についての研究</p> <p>(2) 問題解決的な学習過程や複線型の学習の研究</p> <p>(3) 指導方法・指導体制の研究</p> <p>(4) 充実した豊かな表現活動の研究</p> <p>(5) 体験的な活動・地域教材の開発と人材活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高学年における教科担任制を実施する。 ・ 社会科専科教員による教科担任制を充実する。

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

- 1 学習意欲の向上
 - (1) 問題解決的な学習過程を組み立てることにより、児童の関心や意欲が高まった。3年生から6年生児童の95%が「社会科が好き、どちらかというと好き」と答えている。
 - (2) 自ら学習問題を作り、解決方法を考えて見通しを持って学習に取り組む児童がふえた。そのことにより、学級や学年の学習への構えが身に付いてきた。
 - (3) 社会科専科教員が授業を行うことにより、他の学級で複数体制の指導などができ、社会科のみならず他教科においても学習意欲の高まりや広がりが見られた。
- 2 学力の向上
 - (1) 学習への意欲や学び方、表現力、課題発見能力、問題解決能力などの力が培われはじめ、思考力や判断力の育ちが見られ始めた。児童の学習を蓄積したポートフォリオや学習のまとめなどが充実してきた。
 - (2) 学年を見通した単元計画を構築することにより、各学年や単元で身に付けておくべき基礎・基本をくり返し習得させることができた。
 - (3) 自己の課題に合った学習集団の編成により児童への手立てが明確になり、個に応じて指導する機会がふえ、より多くの児童への支援的活動が可能となった。
- 3 指導方法・指導体制の工夫による効果
 - (1) 個に応じた指導を展開するための指導方法や指導体制であるという共通理解のもと、他教科にも意識した指導が広がった。
 - (2) 社会科専科教員の活用により、様々な授業形態や指導体制を工夫することができ、効果的な指導の在り方を考えることができた。
 - (3) 多くの教師による児童の把握ができ、多面的理解につながった。
 - (4) 「社会科が楽しい」と思う単元の設定や、学習の連続性を大切にした授業の展開ができた。
- 4 指導力向上を目指した研修
 - (1) 校内授業研究会をはじめ、対外的な公開授業を積極的に取り組むことにより、目標分析先行の教材研究や授業研究の深まりを作り出すことができた。
 - (2) 多くの方々の指導・助言を積極的に生かしたり、教師自身の発想も工夫したりして、本校の研究の方向性を話し合うことができた。
 - (3) 社会科に限らず生活科においても、研究の流れを受けた取組を進めることができた。

2. 今後の課題

- 1 表現力の育ちを生活に生かす
 - (1) 自分自身の中で表現したいという願いを持つ児童や表現することを楽しむ児童が確実にふえた。しかしながら、自分らしくという点については、さらに経験や体験を積み重ね、育てていく必要がある。
 - (2) 問題解決的な学習を通して、自ら課題を見つけ、その解決に取り組むなど、自ら学ぶことを楽しむ児童がふえている。しかし、楽しみがまだ浅い段階で止まっている児童もあり、楽しみを学ぶ喜びにまで高められるように育てたい。
 - (3) 表現力の高まりと比べると、自己評価能力の高まりが著しいと感じられる。発達段階に合わせて自己評価の仕方や意義をさらに理解させ、その力を身に付けさせていくことがさらなる質の高い表現力の育成につながると考える。
- 2 「楽しい社会科」を目指した単元構想、授業展開の工夫、改善
 - (1) 体験的な活動や調べ学習など追求学習は深まりがあり、真剣に取り組む姿も多く見られるようになった。しかし、各自が行った追求を持ち寄り、全体学習で交流したり深めたりする「考える」場面の構想をさらに工夫していく必要がある。
 - (2) 中学年の学習における地域教材の開発をさらに進めていく。
 - (3) ゲストティーチャーの活用を計画的に単元に組み入れ、ねらいに迫る活用の仕方を考える。

学力等把握のための学校としての取組

学年	教科	実施月	調査名	調査の目的
2	国語・算数	4	教研式標準学力検査(CRT)	前学年の学習内容の定着を見る
3	国語・算数	4	教研式標準学力検査(CRT)	前学年の学習内容の定着を見る
4	国語・算数 社会 社会	4 4 2	基礎学力診断テスト(府教委) 教研式標準学力検査(CRT) 教研式標準学力検査(CRT)	学力の習得状況の把握 前学年の学習内容の定着を見る 現学年の学習内容の定着を見る
5	国語・算数・社会 社会	4 2	教研式標準学力検査(CRT) 教研式標準学力検査(CRT)	前学年の学習内容の定着を見る 現学年の学習内容の定着を見る
6	国語・算数 社会 社会	4 4 2	基礎学力診断テスト(府教委) 教研式標準学力検査(CRT) 教研式標準学力検査(CRT)	学力の習得状況の把握 前学年の学習内容の定着を見る 現学年の学習内容の定着を見る

・ 学期末 漢字、計算テスト (2学期 前学年内容、3学期 現学年内容)
・ 毎単元終了時 国語・社会・算数 (3、4、5年生) アンケート実施

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

日時	場所	対象	会議名
H15.8.18 10:15~14:15	京都府総合教育センター 北部研修所	各市町から数名	京都府教育課程研究大会 社会科部会
会議の目的	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領の趣旨に基づく教育課程の編成及び実施上の課題について研究協議を行い、適正かつ円滑な実施を図る。 本府教育委員会学校教育指導の重点化を具するため、各教科、道徳及び特別活動等における指導方法などの工夫改善を図る。 		
成果	・ フロンティアティ-チャ-が、本校の研究を実践発表し広めた。		
日時	場所	対象	会議名
H15.11.26 13:15~16:30	本校	管内各小・中学校教務主任	中丹地区学力向上推進協議会
会議の目的	<ul style="list-style-type: none"> フロンティアスクール等の実践を通して、教務主任の立場から、児童生徒の学力を充実・向上させる方策について交流協議し、管内各学校における教育の一層の活性化を図る。 		
成果	・ 本校の研究を公開授業により広めることができた。		
日時	場所	対象	会議名
H15.12.9 14:00~17:00	本校	福天加小中学校社会科主任	北教授を招いての校内研究会
会議の目的	<ul style="list-style-type: none"> 本校の研究推進の内容や方向性を検証し、児童の学力充実のための取組を研究する。 		
成果	・ 本校の公開授業をもとにして、研究・研修を深めることができた。		

本校の研究内容を、「授業改善実践事例集 第 集」(中丹教育局編集)に掲載する予定である。
HPの原案を作成し始めた。(平成16年5月開設予定)
フロンティアティ-チャ-の活動実績

- 他のフロンティアスクールの校内研究会に参加し、研究を広めたり研修したりした。
- 地元中学校との連携を図り、授業公開・研究協議を持ち研究を検証した。
- 本年度の活動内容や実績などを「学校便り」にして保護者に発信した。
- 各研究会に参加し、本校の研究について積極的に発言し広めた。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無